

居場所の大人にできること

— 子ども食堂篇Ⅲ —

馬渡 徳子

7月30日、地域の皆さんとともに「反核平和のつどい」を開催した。

7年目となるこの企画のきっかけは、地域の校長先生のこんなつぶやきから始まった。「夏休みの登校日が8月6日か9日でなくなり、長年継続してきた直接の戦争体験を子どもたちに語って頂く機会がなくなってしまった。とても残念だ。」

たまたま私の地域包括支援センター転勤と重なったことから、新規事業の認知症カフェと子ども食堂創設一年目の夏休み企画として、このつどいを開催することとなった。

語り部は、元患者さんをお願いし、快く引き受けて下さり、校長先生が子どもたちにもチラシを配布下さったことから当日は賑わった。

この企画は、コロナ禍も止めることなく継続し、昨年度からは、子どもた

ちと金沢大学学生ボランティアとで、2カ月前から演目を選び、コツコツと人形劇の準備をして本番に備えてきた。今年度は、子どもたちの提案でペープサートに変更し、教科書より「ちいちゃんのかげおくり」を作成し上演した。子どもたちも大学生たちも、しっかりと教科書を読み込み、作成と練習に励んできた。

当日、長崎での被爆体験を記されたお手製絵本「カーネーション」のご保人による朗読もあり、続いて出来立てほやほやの「たみちゃんのノーモアヒロシマ」を大学生3人と子ども食堂スタッフで紙芝居を行った。また、4年ぶりに地元のうたごえサークルをお招きし、「折り鶴」「青い空は」「翼を下さい」のマスク越しの合唱も叶い、懐かしい楽曲に、心豊かなひと時だった。



つどいに参加された地域の方々は、口々に現在の日本の情勢を慮って心を痛めておられる発言をされた。大学生は「私たち世代も、目をそむけないで、平和のバトンを受け継いでいかななくてはならない」とそれぞれの言葉で決意を述べた。

さて、昨年度からは夏休み企画として、毎週火曜日と水曜日の昼時間帯に子ども食堂を追加し、ランチと「広島・長崎原爆展」「平和を考えるアニメ映画」「木工教室」「勾玉づくり」「冷お抹茶会」を開催しており、毎日賑わっている。

体調不良の為つどい当日に参加できなかった子どもたちとは、これらの企画を通して感想を交流してきた。夏休みを利用して北欧に留学する大学

生の現地への手土産にと、ホストファミリー経験のある子どもが呼びかけて、自主的に千代紙で折り鶴を作成する姿もみられた。

その大学生には、留学先の小学校で特別授業を行うという課題があるようで、「日本の折り紙・折り鶴の由来について話し、現地の子どもたちと一緒に折り鶴を折る」という授業を行うそうだ。その国は、長引くウクライナ情勢の影響で、国の外交のあり方が変化している。帰国後の報告会を、子どもたちと楽しみにしている。

そう、今年初めに、タレントのタモリさんが「徹子の部屋」で「今の日本は、戦争前夜」と表現しておられた。怖がってばかりはいられない。

自分の言葉・行動で、恒久平和への

願いを伝え継いでいかななくてはなら
ないと思う。

加賀の地に
平和を願いし
仲間あり
明日は晴れと
千億の星に頼んでおいた

NHK 朝ドラ「舞い上がれ」
梅津隆司さんの本歌取りより

